

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

569-320

事務事業名	特定環境保全公共下水道(竜丘処理区)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
	部等名	水道環境部	課等名	下水道課		12	2	1	3	1	99	26,000
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり				包含する細々目							
施策	45 居住基盤の向上											
実施区分	継続	会計	下水道	環境調整会議	不要	関連計画条例等	飯田市下水道整備基本計画、下水道法、都市計画法、水質汚濁防止法、下水道条例、負担金条例、天竜峡エコバレー構想					
		事業期間	7	年度～	20		年度					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・特環竜丘地区排水処理区内の市民及び事業所が対象です。	特環下水道(竜丘処理区)計画戸数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			1510	1510		
	・市民皆水洗化を図るために、特環下水道竜丘処理区の下水道施設を整備し普及率を高めます。	特環下水道(竜丘処理区)計画人口	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		最終目標達成年度
			5400	5400		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	竜丘処理区下水道普及率 %	18目標	100	最終目標		
		18実績	100	19目標		↑
	23目標		23実績		最終目標達成年度	
	竜丘処理区の水洗化率 %	18目標	48	最終目標	100	
		18実績	43	19目標	50	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	市民皆水洗化を目的とし、飯田市下水道整備基本計画に基づき、竜丘処理区において特環下水道施設整備(管渠・処理施設)を行う事業です。 計画区域内人口 5,400人 計画区域面積 213ha	18年度の実績 ・下水道管渠築造工事L=391m施行いたしました。 ・水洗化に向け、関連工事及び引込管工事(5工区)を施工いたしました。 ・処理場の2池目の水処理及び汚泥処理の機械・電気設備の工事を行います。 ・工事説明会において水洗化の必要性を説明し、早期の水洗化を促進致します。	下水道管路:m 説明会:回数	L=391m 5工区 7回
	19年度計画 ・下水道管渠築造工事(L=420m)を計画しています。 ・水洗化に向け、関連工事及び引込管工事を施工します。 ・工事説明会において水洗化の必要性を説明し、早期の水洗化を促進致します。	下水道管路:m 説明会:回数	L=420m 3工区 3回	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源	65,900	0
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	74,500	24,700
	その他	38,000	30,000
	一般財源	-10,600	-28,700
事業費計(A)	167,800	26,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,000	19年度 1,000
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	3,576	3,576
	トータルコストA+B	171,376	29,576

特定財源内訳や補足事項	汚水処理施設交付金(国1/2) 下水道事業債(補助残90%,非補助95%)
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	水洗化率(4手法全体) %	現状値	78.8	19実績	81.5
			20実績		21実績	
	新川の水質(BOD値)		22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
市民からの生活環境の改善要望が強かったため、市民皆水洗化に向け事業を開始し致しました。	・宅地開発等により、地区内の土地利用が変化しています。 ・集合処理と個別処理の経済比較と費用効果について比較検討を実施致しました。(国交省へ提出済) ・補助金事業が交付金事業になりました。	・市民からは早急な管渠布設の要望があります。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	水水洗化の必要性をPRし、水洗化の促進を図ります。 実施年度 20 具 体 化
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	引込管等に対応しないと水洗化できない家屋が多い。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- 施設などを新設、改造、廃止するとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	公共工事における環境配慮設計として、ISO公共工事環境配慮評価シートによる竣工時配慮率の目標値を80%として取り組みました。		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	